

## 第2回 エリアブランディング構想策定事業 研究会 議事録

### 1. 開催日時

令和6年（2024年）3月26日（火）10時00分から11時30分

### 2. 開催場所

小田原市役所 7階大会議室

### 3. 出席者等

#### <出席者>

米山典行（株式会社小田原魚市場/社長）  
古川孝昭（小田原市公設水産地方卸売市場買受人組合/組合長）  
高橋 収（漁港の駅 TOTOCO 小田原/駅長）  
小松伸之（早川商工振興会/会長）  
鈴木志卓（早川みなと商店会/会長）  
田川修三（小田原地魚大作戦協議会/会長）  
市川将史（小田原地魚大作戦協議会/副会長）  
脇 昌丈（木地挽自治会/会長）  
富樫栄広（みなと自治会/副会長）  
青木 勝（西組自治会/会長）  
加藤 始（東組自治会/会長）  
飯田順彦（小田原商工会議所/支援二課長） **※代理出席**  
外郎藤右衛門（小田原市観光協会/会長）  
堀池衡太郎（NPO 法人小田原ガイド協会/会長）  
山根 寛（東日本旅客鉄道株式会社 企画総務部経営戦略ユニット/マネージャー）  
黒川 真（東日本旅客鉄道株式会社 小田原・伊豆統括センター/副所長）  
加藤健太（神奈川県西部漁港事務所/副技幹） **※代理出席**  
片山俊之（県西地域県政総合センター 地域農政推進課/主査） **※代理出席**  
守屋輝彦（小田原市長）  
和田芳廣（経済部（観光課）/副部長）  
内田充俊（経済部水産海浜課/課長）  
石塚正章（都市部都市計画課 市街地整備担当/課長）  
金子明弘（都市部まちづくり交通課/副部長）  
斎藤武志（企画部/部長）  
阿部祐之（企画部/副部長）

#### 【事務局】

府川一彦（企画部未来創造・若者課/課長）  
田邊周一（企画部未来創造・若者課/副課長）

今野真吾（企画部未来創造・若者課 未来創造係/係長）  
石渡陽介（企画部未来創造・若者課 未来創造係/主査）  
田村将洋（企画部未来創造・若者課 未来創造係/主事）

#### 【庁内検討会議メンバー】

見坊俊明（経済部水産海浜課 水産振興係/主任）  
菊川雅史（都市部都市計画課/副課長）  
土谷海斗（都市部まちづくり交通課/主事）  
葛西隼太郎（都市部まちづくり交通課/主事補）

#### ＜欠席者＞

高橋征人（小田原市漁業協同組合/組合長）  
松本孝俊（中組自治会/自治会員）  
鈴木悌介（小田原箱根商工会議所/会頭）  
川口篤郎（かながわ西湘農業協同組合 総務部総務課/課長）  
加藤秀一（神奈川県西部漁港事務所/所長）  
柳下 勉（県西地域県政総合センター 地域農政推進課/課長）  
荒井千里（県西土木事務所 小田原土木センター 道路維持課/課長）  
内山俊貴（経済部観光課/主事）  
桐村隆広（都市部都市計画課/主事）

#### ＜受託者＞

大野 整（株式会社都市環境研究所）  
関 宏光（株式会社都市環境研究所）  
西村卓也（株式会社都市環境研究所）  
佐藤栄太（株式会社都市環境研究所）  
久保凜一郎（株式会社都市環境研究所）

#### 4. 資料

会議次第  
出席者名簿  
席次表  
資料1 エリアブランディング構想案（概要版）

#### 5. 次第

- 1 あいさつ
- 2 エリアブランディング構想案について
  - (1) 早川地域の現状と課題
  - (2) 必要な取組みとまちづくりの基本方針
  - (3) 2040年のまちの将来像【全体構想】

(4) 構想の実現に向けて・未来創造図

### 3 その他

今後のスケジュールについて

### 4 講評

## 6. 議題

### (1) 早川地域の現状と課題、必要な取組とまちづくりの基本方針について（次第2 (1) (2)）

事務局 資料1「エリアブランディング構想案（概要版）（1）早川地域の現状と課題、（2）必要な取組とまちづくりの基本方針」に基づき説明

（次第2 (1) 早川地域の現状と課題及び (2) まちづくりの基本方針 質疑）

小田原地魚大作戦協議会（田川） まちづくりの基本方針及び求められる取組に記載されている「水産物・農産物等の地場の食材を変える場所の充実」及び「食」と「海」の魅力を生かした賑わいづくりは、美食のまちにもつながりのある取組のため、他の計画や関連事業との連携は重要だと考える。

木地挽自治会（脇） 地域コミュニティの活性化が課題であり、コミュニティ拠点の必要性を感じている。  
また、交通面では、現状では土日祝日は道路が混雑しているため、渋滞解消に向けて早期に取り組んで行く必要がある。

株式会社小田原魚市場（米山） 資料6 ページの「地場の水産物などを日常的に買い物しやすい場所が少ない」の記載に関して、現状は取引をしている2店舗の鮮魚店及び漁港の駅 TOTO CO 小田原が早川地域内で営業しているが、「買い物しやすい」とは、どういった点の改善を求められているのか、改善点が明確になれば店舗にもフィードバックしたいと考えている。

事務局 調査結果を振り返り再確認させていただきたい。

### (2) 2040年のまちの将来像【全体構想】について（次第2 (3)）

事務局 資料1「エリアブランディング構想案（概要版）（3）2040年のまちの将来像【全体構想】」に基づき説明

（次第2 (3) 2040年のまちの将来像【全体構想】 質疑）

小田原地魚大作戦協議会 資料22 ページの漁港の駅 TOTO CO 小田原周辺のパースは、アクティビティを中心に描かれているが、その中にグランピング等の機

- 会（市川） 能を提示することは可能か。
- 事務局 当初、多目的広場の活用にグランピングを記載していたが、管理者である神奈川県西部漁港事務所との調整を踏まえて削除した。
- 神奈川県西部漁港事務所（加藤） グランピングは、常設のテントを設置するものであり宿泊施設を整備すると解釈し、設置は困難であると判断させていただいた。
- 小田原地魚大作戦協議会（市川） エリアブランディング構想においては、将来に向けた可能性を探ることが重要であると考え、常設が困難であると判断した根拠は法律に基づくものなのか、または、安全性の問題なのか。
- 神奈川県西部漁港事務所（加藤） 多目的広場の土地所有者は神奈川県であり、民間業者が宿泊施設として整備するためには用地売却等の手続きが必要になる。また、小田原漁港の整備工事が当初予定から長引き、周辺の用地を工事ヤードに使用する可能性があるため、2040年までに実現する将来像として示すことは困難であると考えている。
- 東組自治会（加藤） 国道135号沿道では、来訪客が漁港の駅TOTOCO小田原へ頻りに通行している様子を目にしている。昨日も大学生と思われる団体がスーツケースを持って通行していた。  
また、早川駅からスーツケースを持って石垣山一夜城まで向かう様子も見受けられるが、若い世代の旅行者には辛い思いをしながら向かうことなく、楽しい思い出を作ってもらいたい。  
また、早川駅のバリアフリー化は乗降客数3,000人以上が必要要件とのことであるが、既存の早川駅構内へのコインロッカーの設置等の対応であれば、早い段階で実現が可能であると思うが、サービス向上にあたり早期に対応するべきではないか。
- 東日本旅客鉄道株式会社（柳田） コインロッカーの設置については、すぐに判断できることではないため、ご意見として承り、設置の可否、場所などを含め、エリアブランディング構想で描いた将来像を踏まえながら検討していきたい。  
また、限られた敷地におけるコインロッカー等の設置、駅前広場におけるマルシェ開催等のまちづくりに伴うニーズ、コロナ禍以降の観光客のインバウンドによる訪日外客数増加などを受け、弊社が実施できる取組を検討していきたい。
- 早川商工振 県道724号沿道は、かつては肉屋・魚屋・八百屋が立ち並んでい

興会（小松） たが、空き家の増加等により寂しい状態であるが、再び賑わいを取り戻したい。

以前は、早川商工振興会に加入していた店舗などもあったが、現在は、釣り船店が加入しておらず、再び加入してもらえるように働きかけながら、協力して取り組んでいきたいと考えている。

また、早川駅前広場は中央に駐輪場があり、活用しづらいと感じているので、パースにあるような活用ができると良いと考える。

小田原市観光協会（外郎） ハード中心の整備は構想案に描かれているが、早川地域の魅力を再度発掘できないかと感じた。

NPO 法人小田原ガイド協会では、石垣山一夜城等を中心にまち歩きを実施しているが、早川地域のまちなみや海沿いのまち歩きはほとんど実施していないようである。

早川地域や米神地域まで歩くと、昔ながらのまち並みが残っており、まち歩き観光で、過去、現在、未来を紹介することで、まちの魅力を高められるのではないかと考える。

また、ガイドが観光案内をするのではなく、早川地域の居住者が案内をすることで、まちに磨きがかかり、魅力が向上することにより、早川駅の降客数の増加にもつながるのではないかと考える。

また、早川地域から約1km離れている板橋駅からのまち歩きのルートがなく、約2km離れている小田原駅からの回遊ルートとなる西海子小路では、樹木が伐採されたため、魅力的なルートが設定しにくい課題はあると思うが、人の流れを創出するためには、駅からのまち歩きだけでなく、近隣からのまち歩きも充実させるなど「人の往来を創出し、東海道線を利用してもらう仕掛けを試みても良いと考える。

観光協会としては、施設整備により来訪者を呼び込むことも重要であると考えているが、ソフト面の充実によって人々のふれあいが生まれるまちづくりを推進したい。

NPO 法人小田原ガイド協会（堀池） 早川地域の居住者がまちの魅力の認知を促すため、早川地域から板橋地域に向かうまち歩きコースを作成した。

早川地域には文学に関するスポットが多く、谷崎潤一郎が宿泊した施設、豆相人車鉄道が通過していた歴史、鈴木貫介歌碑等を巡るまち歩きを年1回程度開催しているが、まち歩きの中でも人気のある石橋山合戦の地及び石垣山一夜城コースの開催頻度は増えている。

また、市観光課から受託し、土日祝祭日は早川駅前の臨時観光案内所を運営し、手荷物預かりを実施しているが、預かりスペース限

られていることから、手荷物の保管場所が直ぐに埋まってしまう。

スタッフは、70歳以上が多く、マンパワーが不足している状況から、土日祝祭日のみの運営に留まっている。

現在、ガイド養成講座により人材育成を進めているが、今後、新規人材が確保できれば、観光案内所の通年運営も可能であると考え

る。  
なお、早川駅前パースに示されているマルシェの開催は、やや具体性に欠けるのではないかと感じており、漁港の駅 TOTOCO 小田原及び早川みなと商店会から離れた位置にあるため、実現にあたり異なる観点からの検討も必要と考える。

事務局 小田原箱根商工会議所の鈴木会頭からも、早川駅前においてアートの観賞等も視野に含めたイベント開催をすべきというご提案を頂いているため、表現方法について検討したい。

### (3) 構想の実現に向けて・未来創造図（次第2(4)）

事務局 資料1「エリアブランディング構想案（概要版）（4）構想の実現に向けて・未来創造図」に基づき説明

（次第2(4) 構想の実現に向けて・未来創造図、構想全体について 質疑）

漁港の駅 2040年に向けた将来イメージはワクワクするものであり、実現  
TOTOCO 小田 に向けて最大限協力していきたいと思う。

原（高橋） 漁港の駅 TOTOCO 小田原は、現状では第三次産業を中心としているが、今後は、第一次産業の漁業者と第二次産業の加工業者とも連携していきたいと考えている。

一方、構想案に示されている内容は、観光や交流人口の増加の視点がメインであると感じるが、早川地域最大の魅力である漁業の担い手不足が課題となる中で、誰が魚を獲ってくるのかといった視点も構想に落とし込めると良いのではないかと考える。

また、拠点となる小田原市公設水産地方卸売市場の再整備の将来の姿を明示するなど、水産市場の再整備と連動させながらまちづくりを進めていくべきであるとともに、パース図に描くものは漁港の整備計画と併せて考えていくべきだと思ふ。

さらに、小田原市観光協会外郎会長のご意見の通り、地域住民がいきいきと早川地域で暮らすことができ、人々のふれあいが生まれるまちづくりも重要だと考える。

経済部水産 市では、漁業後継者、つまり若い就業者の確保について、取組を  
海浜課（内 推進しており、令和6年度は短期就労研修を予定している。

田) 小田原市公設水産地方卸売市場の再整備については、エリアブランディング構想において、現在地での再整備を将来イメージとして描いており、今後、現在地での再整備に向け取組を加速させていきたいと考えている。

神奈川県西部漁港事務所(加藤) 当事務所の整備計画として、今後しばらく注力していくのは、早川地域東側の荒久海岸における人工リーフ整備である。だからといって早川海岸のことを考えていないわけではない。県では現在地球温暖化に伴う海面水位の上昇などを考慮した防護水準や、相模灘沿岸海岸保全基本計画自体の見直しを行っているため、現時点では整備方針が固まっておらず、2040年時点での整備についても同様に固まっていない。

このことから、パース図のような現状と異なる消波ブロックや砂浜の整備を描くことについては、今後調整事項とさせていただきたい。

小田原箱根商工会議所(飯田) 来訪者を地域同士で奪い合うのではなく、早川地域に人が集まることで周囲に賑わいが広がり、小田原・箱根地域も含めて発展することが望ましいと考えている。

また、クルーズ船の就航によって早川地域が海の玄関口になることにより、周辺地域にも賑わいが波及することを希望している。

株式会社小田原魚市場(米山) 早川地域を目的に来訪し、長時間滞在する人が少ないことが調査結果に示されているが、小田原には小田原城及び石垣山一夜城の2つの城が立地しているという珍しい特性を生かし、石垣山一夜城との連携が必要であると思う。

また、小田原市公設水産地方卸売市場については、第三種漁港であることを生かし、漁獲量に応じて地区外船の受け入れることも想定した整備も必要になると思う。

小田原市公設水産地方卸売市場買受人組合(古川) 駐車場の不足が深刻な課題である中、将来イメージ実現に向けて様々なコンテンツを導入していくうえでは、何をどこから受け入れるのか、交通では電車なのかバスなのかなど、しっかりと取組方針を整理せずに手あたり次第取り組むと、かえって地域の迷惑になってしまうので、ロジックを整理しながら進めていく方がいいと考える。

また、近年の海水温度の上昇の影響により小田原漁港の水揚量が減少し、魚価が高騰しており、地元の鮮魚店がセリで仕入れることが困難となっている。

買受人組合員の半数から3分の2以上が高齢者であり、今後の鮮魚店の減少が懸念されている中で、早川地域で地場の水産物が購入できる場所を増やすためには、新規の店舗誘導も必要であるが、既存の地元鮮魚店が営業継続するための支援も重要と考える。

事務局 駐車場不足の解決プロセスについては、神奈川県西部漁港事務所と水産海浜課を中心に検討していくことになる。

木地挽自治 構想の実現に向けては、事業の進捗管理を行い、実施された取組  
会（脇） が研究会メンバーに共有していただきたい。

事務局 構想の実現に向けた推進体制として、構想策定後も本研究会を継続させながら、進捗管理をしていきたいと考えているが、賛同頂けるか。

全出席者 異議なし。（満場一致）

事務局 それでは、次年度以降も研究会を継続していくので、よろしくお  
願いしたい。  
また、構想案全体を通して質問はあるか。

全出席者 （意見なし）

#### **(4) 今後のスケジュールについて（次第3）**

事務局 本日の研究会での意見をもとに、本港・早川・新港周辺ゾーン及び漁港の駅 TOTOCO 小田原周辺ゾーンの関係者と調整を行い、構想案の最終確認を進め、最終校正が終了次第、研究会構成員にメール確認を依頼する。

また、令和6年4月18日に小田原市議会総務常任委員会において、本事業の策定状況を報告し、4月末を目標に構想を策定したいと考えており、その後、小田原市のホームページや広報で周知する。

次年度の研究会は、令和6年7月頃の開催を予定しており、構想に係る施策等の検討状況や推進体制検討を議題として考えている。

全出席者 （意見なし）

#### **(5) 小田原市長講評（次第4）**

小田原市長 構想案を取りまとめていただき感謝申し上げます。

（守屋） 私が平成4年に神奈川県庁へ入庁し、都市政策課に配属された際

には、プランばかり作成し、事業の進捗が滞っていた。その後、一般的な行政は、実現可能性を重視する方向にシフトし、実現不可能である理由を列挙することが多くなり、夢を語るものが少なくなっていた。

エリアブランディング構想は、実現性を高める継続的な検討が必要である一方、夢を語ることを重視しており、ワクワクする目標に向かいながら、地域住民、関係者及び行政が一体となって取組んでいくことは非常に意義があると感じている。

令和4年に策定した小田原市総合計画は、3年ごとに施策評価を踏まえて実行計画を見直すこととしており、令和6年度は第2期計画の策定を迎えるため、エリアブランディング構想の内容を反映させ、必要な施策については予算化し、今後は各論に向けて検討していきたいと考えている。

研究会の継続による進捗管理も決定し、引き続き、実現に向けて一歩ずつ検討を進めていけるようお願いしたい。

以上